

ワケ カタチには理由がある(50)

Shape follows Function
& Taste

～ロッキード F-5F(P-38L 偵察機型)ライトニング



本機はロッキード P-38 の中でも顎ラジエータ付きの L 型の偵察機型で、F-5F(形式記号 F は多分、photographic の音からの略号(abbreviation))という形式が与えられていました。機首から機銃が取り除かれ、その代わり複数台のカメラが取り付けられました。第二次世界大戦の戦闘機のなかでも傑作双発戦闘機の呼び声の高い P-38 をベースとしており、戦闘機型でも過給機を使い、680km/h の高速を誇りましたから、機銃を外して軽くなった機体はそれ以上の速度であったと思われ、日本機はもちろんドイツ機でもそう簡単には迎撃できなかったのではないかと思います。加えて、写真のように後方からのシルエットを改めて見ると、その投影面積は極めて小さく、迎撃する相手からは相当な難敵だったことがわかります。なお、面白いのは、模型でも再現されていますが、左右のエンジンナセルの内側に取り付けられた楕円型のミラーで、これに前脚を映すことで、コクピットからパロットがその収納状態を確認することができました。P-38 は当時の米軍戦闘機の中でもスーパーカーのような高級高性能の機体でしたが、このような地味な、しかし堅実な技術も使われていました。

【模型について】

韓国のアカデミー(Academy)の 1/72 のインジェクションキットに、カラペナデカル(Carpenna)に入っていた F-5 改造用の機首を移植して製作しました。アカデミーのキットは J/L 型としてはベストで、上記した楕円形ミラーも鏡面シールが用意されています。(中川裕幸 2022 年 1 月)